

平成20年度質の高い大学教育推進プログラム審査結果表【選定】

機 関 名	北海道情報大学				
取 組 名 称	ICTによる自律的FD推進モデルの構築				
取組学部等	全学				
申 請 区 分	教育方法の工夫改善を主とする取組				
整 理 番 号	A21094	申 請 の 形 態	単 独	取 組 期 間	3 年
申請の分類	ICT	FD・SD			
キーワード	ICT, ファカリティポートフォリオ, 自律的FD推進モデル, PDCAサイクル, イストラクショナルデザイン				

<選定理由>

本取組は、「ICTによる自律的FD推進モデルの構築」により、大学教育の質を高めるためのPDCAサイクル実現を目的として取り組んだプログラムとして高く評価できる。特に、ファカルティポートフォリオ（データベース）をコアとして情報の蓄積・共有をし、教員がeラーニングで学べる環境を開発して活用することで、自律的なFD推進に取り組むことができるという点で大きな意義を有するものである。FD推進モデルを実現するために8つのワーキンググループをスタートさせ、全学教員の半数以上がこのワーキンググループのメンバーに加わっているということは、大学がこの取組の意義を高く位置づけていることのあらわれである。

ただし、FDに対しての取組がこれまで十分でなく、個々の教員に任されていたものが「自律的モデル」としてどの程度まで活用されていくのかが気にかかるところである。しかし、ファカルティポートフォリオにおいて、改善の見られない教員に対して勧告等が行われるというのは大きな刺激となるであろう。また、FDエキスパートモデルで最適教授法を提示するとあるが、形態・教室・人数などさまざまに異なる授業に対して、それぞれに対応したきめ細やかなモデルを提示できるかが成否にかかっている。取組実施に当たっては、このことに対応しつつ、着実に成果を上げることを期待する。

取組の概要

大学の全入時代を迎えて、大学はこれまでになく多様な学生が増加している。そのような教育環境の変化の中で、大学全体として教育の質をいかに高めていくかが問われている。本取組は、「ICTによる自律的FD推進モデルの構築」により、教員が教育の質を高めるためのPDCAサイクルを実現することを目的とする。

例えば、米国の大学では、既にICTを授業に活用することで教育の質の向上の成果を挙げている。本取組は、教員が各自のパソコンを利用しながら、授業、即ち、PDCAサイクルのDo（授業）の部分のみならず、Plan（授業改善計画の作成）、Do（教材開発、授業）、Check（評価）、Action（研修、自己点検）のサイクルを自主的に行い得るシステム構築のために、ファカルティポートフォリオ（データベース）をコアにした自律的FD推進モデルの構築を目指している。

ICTによる自律的FD推進モデルの概念図を示す（図1）。ファカルティポートフォリオには、PDCAの各サイクルでの成果物が蓄積され、次の各サイクルで再利用される仕組みを開発する。

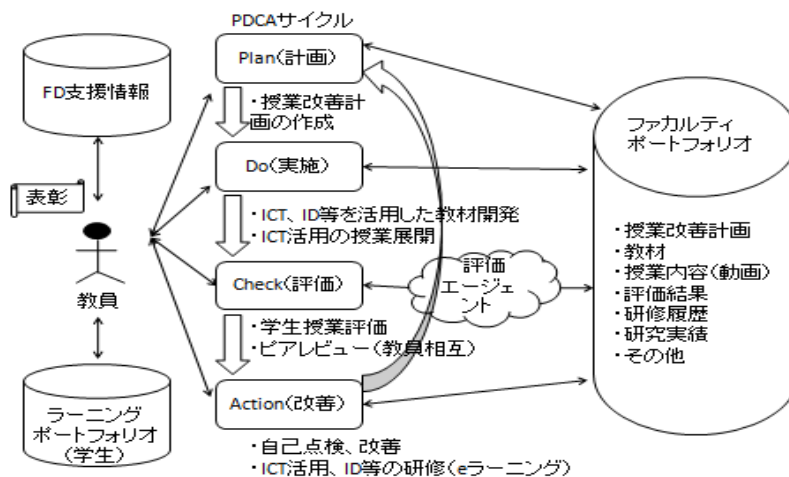


図1 ICTによる自律的FD推進モデルの概念図

(1) Plan（授業改善計画の作成）段階での支援機能の開発

ファカルティポートフォリオに蓄積された学習授業評価アンケートやピアレビュー結果の閲覧、ICTの利用方法やインストラクショナルデザイン（ID）を用いた教材開発などのFD支援情報を参照しながら、授業改善計画を作成する環境を開発、利用する。

(2) Do（教材開発、授業）段階での支援機能の開発

教員が、ICTやIDを用いた教材開発を容易にできるためのテンプレートを開発する。授業の展開はICT活用が可能なシステムを導入する。各教室での授業（動画）は、ファカルティポートフォリオに蓄積され、教員は自らの授業を自己点検可能となる。

(3) Check（評価）段階での支援機能の開発

学生授業評価アンケート、ピアレビューの結果、研修履歴、研究実績などの情報を総合的に判断し、適切な情報を提供するための評価エージェントを開発、導入する。

(4) Action（研修、自己点検）段階での支援機能の開発

評価内容に基づき、改善のために必要なICTおよびID活用のためのノウハウ、知識等をeラーニングで学べる環境を開発し、活用する。